

今からだいぶ前のこと。教祖七十年祭に大竹初代庁長様の呼びかけで、おぢばがえりをしました。私には二人の弟がいますが、家のことは自分たちがするから、兄さんは神様のことにがんばって、毎日にをいがけおたすけにがんばってとのこと。伝道庁にも毎月運ばせていただきました。数々のご守護を見せていただきました。ある時、思いがけない御用をいただきました。それはアダマンチナより30キロ。パウエンブのいなか。百家族以上の日本人の大きな植民地、当時、生長の家の盛んなところでした。今、伝道庁におられる並木様のおじさまが生長の家の誌友会の会長をしておられたのです。その並木様が脳溢血で倒れたのです。会長様が不在で、私にその葬式を頼まれたのですが、親神様、教祖にもたれて勤めさせていただきました。天理教の葬式は皆見たことのない人ばかりでした。おかげさまで無事に勤めさせていただき、教祖にお礼を申し上げました。

次に、安田常八という方ににをいがかかりました。その方は中風の身上でした。毎日六年間おたすけに通わせていただきました。教祖のお働きで神様をお受けしてくださいました。そうして長男にお嫁様をお世話していただきました。一番末の娘を私の弟の嫁にもらいました。

私たちの教会は、会長様が身上でいつも閉めておりましたので、大教会長様が役員先生、川口静夫先生ご夫婦をよこし下さいました。そうして役員会を開かれたのです。そうして私にとの白羽の矢が立ちました。私はもう年だし無学だからと思いましたが、教祖百二十年祭三年千日お打ち出しの旬、また伝道庁創立六十周年三年千日お打ち出しの旬だからと思いついてお受けいたしました。大変先生がお喜びください、大教会長様に電話をかけられました。私は布教所をさせていただいておりますが、教会の会長は両方はできないと川口先生。弟の嫁「初江さま」にやるようにと言われましたお陰で受けて下さいました。マットグロソ州カンポグランデ市で一生懸命につとめてくださっております。

私は届かぬながら、おぢばがえりをさせていただき、尊い五代会長の理をいただきました。そうして、伝道庁にお参りいたしました。心配をしておりました。なぜかと申しますと、今日の伝道庁の会長様達はみな若い専修科出、お医者様、弁護士、大学出ですから、私のようなものが勤まるだろうかと心配をしておりました。トッパンの会長様がよかったですね。何も心配はいらんよ。働く気さえあれば、親神様、教祖が働いて下さるとのこと。私ははたらく気持ちは十分ある、と申しました。教祖のお陰で、数々のご守護をいただきました。布教所開設、数々の葬式、結婚式などを勤めさせていただきました。イルトンプラードというブラジル人もおさづけを頂かれました。大勢で百二十年祭に帰らせていただきました。皆教祖のお働きとお礼を申させていただきます。昨年は上級教会の会長就任奉告祭に帰らせていただきました。詰所にいるときに天理大学から電話が来ました。それは信者さんの娘さん(山下あけみさん)が天理大学に留学しておりましたが、別席を運び、おさづけを頂かれたとのことでした。海外伝道部につとめておられた香山光様のお世話で度々詰所に来てくだされ、おかげさまでようぼくにもなつていただきました。教祖のお働きとお礼を申させていただきます。そのお世話をして下された香山光様がブラジルに来てお

られ、マリリアの大学に留学をしておられます。毎月、伝道庁であっております。

また、一番うれしかったのは、カンピーナスの近くにあるノーバオデッサの福伯布教所の山田所長様が、二十歳になる自分の孫が、二十一歳のブラジル人と結婚することとなりましたので、会長様にお願い、とのことでした。私は少し驚きました。なぜかと言いますと、ブラジルでは、アベマリアを拝むことも知らない人でも結婚式はカトリックに頼むのです。盛大に飾るからです。私もカトリックに負けないようにと考え、専門を雇い、リボンを引き、花をたくさん立て、花道を作り、下に敷物も敷きました。新婦の父が日本に働きに行かれていて不在だったので、山田所長様が新婦を連れて入ってこられ、皆が拍手で迎えました。新郎が新婦を迎えに行かれ、二人に神殿の前に行かれ、誓いの言葉を一人ひとりあげ、私が祭文をあげました。一言、話をさせていただきました。昔から言われるようにお前百までわし九十九までと、二人手をしっかり握って陽気ぐらしの道に進んでいただきたいとお伝えさせていただきました。新郎は新婦の親戚に、新婦は新郎の親戚に挨拶にまわられ、大きな広場で宴会をしたのですが、皆が今日の結婚式は良かったと言ってくださいました。そうして三百名以上の方々に、遅くまでにぎわいました。次に教会の役員藤井正吉様の結婚六十年ダイヤモンド式をロータリーのサロンで行いました。次には浦浜吉蔵様の結婚七十年ワイン式をしました。浦浜吉蔵氏は、教会の設立当時より教会の近くにてつくしてこられました。なお、伝道庁にも尽くしてこられた方なのであります。結婚七十年と言うのは、あまり日本でもブラジルでもない話であります。その素晴らしいワイン式を分教会館で行いました。まず御幣をたて、海、山、川のものを供えて、おちばの方角に向いて祭文をあげさせていただきました。そうして祝辞を述べさせていただきました。三百名以上の方々に、遅くまでにぎわいました。仏教会の会長様の奥様が今日の式、素晴らしかったね、と言って下さいました。

次に教祖百三十年祭三年千日の二年目、しっかりとがんばりたいと思っております。この頃、カラオケの先生、相沢辰雄氏が病院のICUに入っておられました。そのICUは誰でも入ることのできないところですので、教会長カードを使って毎日おさづけに行かせていただきました。本当に教祖のお陰です。教祖にお礼を申し上げます。

中和大教会 ペンナポリス教会会長 瀧口謙二 83歳